

臨床講義

癌性乳腺炎 Mastitis carcinomatosa

教授 醫學博士 磯部喜右衛門 講述

助手 醫學士 高 安 彰 筆記

患者：森〇フ〇 51歳ノ女子。農。(昭和9年10月22日入院)

主訴：右乳房ノ腫瘍。

遺傳的關係ニハ何モ特記スベキコトハナイ。

既往歴トシテハ10年前右側ノ肋膜炎ニ罹ツタゲデアル。

現病歴：本年8月初旬、(2ヶ月半前)右乳房ノ上外四分ノ一ノ部 (oberer äusserer Quadrant)ニ鶏卵大ノ腫瘍ノアルニ氣附イタガ、疼痛其他何等ノ苦痛ガナカツタノデ放置シテ居イタ所、次第ニ大キサヲ増シ、9月20日頃カラハ輕度ノ神經痛様ノ疼痛ガ起リ、且熱感ガアル様ニナツタ。1週間前ニ切開手術ヲ受ケタガ血液ノミヲ出シ、爾來却ツテ疼痛ヲ増シ現在ニ至ツテキル。食慾減退シ、全身ノ倦怠感ヲ訴ヘテキル。

現症：榮養ガ割合ニ良好ナ女子デ、全身的ニハ特ニ述ブルベキ變化ハ無イガ、入院後モ毎日體溫ハ最高 38°C 乃至 39°C ノ弛張熱ヲ呈シ元氣ガナイ。

局處所見：御覽ノ様ニ右乳房ガ殆ンド小兒頭大トナツテ膨隆シテキル、殊ニ外上四分ノ一ノ部ハ著明デアル。表面ハ平滑、境界ハ不明瞭デアル。乳嚢ハ左ニ比シ少シ高く、引上ゲラレテキル。局所ノ皮膚ハ一般ニ發赤著明、乳嚢量ノ上方ニ長サ 2cm 幅 1cm ノ創ガアル。分泌物ハ漿液性、深サ 3cm。此ノ創ノ周圍ノ皮膚ハ特ニ暗赤色デアツテ、靜脈ノ怒張ガ見ラレル。

觸診スルニ溫度ノ上昇ハ著明、壓痛モ著明デアル。手拳大ノ腫瘍ヲ觸レル。腫瘍ハ弾力性硬デアルガ創ヲ中心トシテ波動著明ノ部ガアル、但壓迫ヲ加ヘテ見テモ創ヨリ膿ハ出ナイ。皮膚ハ廣ク浮腫性ニ硬ク鞣皮様ニ (lederartig) ナツテ收縮 (schrumpfen) シテキルガ、ヨク診ルト、橙皮様ノ所見ガ見ラレル。指壓デ陷凹 (Delle) ヲ殘ス。皮膚ハ腫瘍ト癒着シ別ニ之レヲ動カスコトハ出來ヌ。然シ上肢ヲ外轉セシメ水平ノ高サ迄舉上サセ大胸筋ヲ緊張サセテモ何レノ方向ニモ腫瘍ヲ動カスコトガ出來ル。即チ大胸筋トノ癒着ハナイ。又基底及胸廓トモヨク動ク。尙右腋窩ニハ1個ノ鶏卵大ノ腫瘍ガ觸レル。其表面ハ平滑、弾力性硬、皮膚ト癒着セズシテ移動性ハ著明デアル。鎖骨ノ上下窩若クハ反對側ノ腋窩等ニハ何モ觸レナイ。

診斷：サテ之ハ何デアルカト云フニ、以上ノ所見デ發赤、腫脹、疼痛、溫度上昇ガアリ、休止期ノ乳腺デアルカラ機能ハ勿論停止シテ居ルガ、之デ急性炎症ノ總テノ主症狀ガ揃ツテキ

ル譯デアル。然シ患者ノ訴フルトコロニ據レバ起リ初メニハ壓痛モナク且自發痛モナカツタノ
 デアル。其レニモ拘ラズ醫者ガ切開ヲ加ヘタト云フカラニハ、其時期ニハ既ニ今モ診ル通りニ
 急性炎症ノ諸症狀ヲ呈シ、全ク膿瘍 (Abszess) ヲ形成シテ居ル時ト同一ノ所見ヲ呈シテ居ター
 違ヒナイ。即チ此急性炎症ノ諸症狀ハ切開ヲ受ケタ爲メノ二次的傳染ニヨツテ起ツタモノデ
 ハナイ。而カモ切開シテモ膿 (Eiter) モ出デズ、且ツ治癒ニモ向ハナイ。現ニ今試ミニ穿刺ヲ
 行ツテモ血液ヲ證明スルバカリデ膿ハ少シモ出ナイ。即チ普通見ル急性乳腺炎 (Mastitis acuta)
 デハ無い。

ソレデハ此ノ様ナ症候ヲ呈スルモノハ何デアルカ。僅カニヶ月ノ間ニ之程大トナツタト云フ
 カラ成長ガ餘リ早スギルガ先ヅ痛ト考ヘネバナラス。ソシテ痛ノ中デモ餘程惡性ノモノト考ヘ
 ラレル。乳癌ヲ組織學的ニ分類シテ見ルニ、

1) 硬性癌 (Skirrhus) 間質結締組織ノ増殖ガ主デアリ、一方デ癌細胞ガ増殖スルガ、他方ニ於
 テ癰痕性ニ收縮シ、永イ年月ヲ經過スルモ餘リ大ナル腫瘍ヲ造ラヌモノデアル。

2) 膠樣癌 (Gallertkrebs) 癌細胞ヲ圍ム結締組織ニ膠樣乃至粘液樣變性ヲ起シテキルモノデア
 ル。此レハ比較的良性ノモノデアツテ、其經過ハ割合ニ緩慢デアル。

3) 單純癌 (Carcinoma simplex) 乳癌ノ中最モ多イモノデ、密ニ併立シタ上皮細胞ガ集ツテ
 出來タ大キナ胞巢ガ可ナリ厚イ結締組織間質ニ依リテ圍マレテキルモノ。

4) 髓樣癌 (Medullarkarzinom) 上皮細胞巢ガ主デアツテ間質ノ極ク纖細ナモノ。

單純癌及髓樣癌殊ニ後者ハ惡性デ經過ハ短イモノデアルガ、ソレニシテモ此ノ患者ノ様ニ僅
 ヶ2—3ヶ月ノ間ニ斯ク増大スル様ナ急速ナ經過ヲトルノハ餘程惡性ノモノデアル。

ソレデハ、一體乳癌ノ診斷ニ必要ナル特性ハ何カト云フニ、癒着 (Verwachsung) 及ビ收縮
(Schrumpfung) ノ二ツデアル。即チ、

1) 腫瘍ヲ被フテキル皮膚ノ變化

皮膚ハ初メハ變化ナク移動性デアルガ、腫瘍ガ成長シ周圍ト癒着スルニ從ヒ、皮膚ハ深く陷
 沒シテ所謂癌臍ヲ造ツタリ、又點狀ニ(結締組織收縮ノタメ)陷沒シ其間ノ部分ハ反對ニ淋巴鬱滯
 ノ爲メニ膨レ上ツテ橙皮狀ヲ呈シテ來ル。更ニ進メバ皮膚ハ次第ニ菲薄トナリ光澤ヲ呈シ多少
 發赤シ、移動セヌ様ニナリ、終ニハ崩壞シテ潰瘍ヲ造ル様ニナル。本患者ノ如ク急性ノモノデ
 モヤハリ此ノ特性ガ現レテキル。

尙深部ニ向ツテハ大胸筋ヲ筋膜又ハ筋自身ト癒着シ更ニ胸壁ニ迄進ム。

2) 癌腫收縮ニ伴フ乳房組織ノ收縮

先ヅ乳嘴ノ飛び出シ様ガ段々少クナリ、乳嘴量モ漸次狭クナリ、更ニ乳嘴ガ却ツテ漏斗狀ニ
 陷沒シテ來ル。又乳房ガ健側ニ比シ總體ニ高ク舉ツテ居テ、乳房ノ下ニアル溝モ淺クナル。此
 ノ乳嘴ノ陷沒ハ乳癌ニ特有デアツテ、癌ガ深部ニアリ皮膚ニ少シモ關係ノナイ時デモ、癌ノ收

縮スル影響ヲ蒙ツテ乳腺ノ排泄管ガ總體トシテ收縮スル爲ニ矢張り起ツテ來ルモノデアル。尙癌デハ早晚、

3) 所屬淋巴腺ノ腫脹ヲ認メルモノデアル。

此ノ轉移ニ對シテハ第1ニ大胸筋ノ外縁デ乳房ト腋窩ノ中間、第2ニ腋窩、第3ニ鎖骨下淋巴腺、第4ニハ鎖骨上淋巴腺乃至頸淋巴腺ヲ檢セナケレバナラス。尙乳房ノ内四分ノ一ノ部ニ出來タ癌デハ、他側ノ淋巴腺ニ轉移ヲ造ルコトガアル故注意セネバナラス。

サテ以上ノ如ク本患者ハ急性デハアルガ明カニ癌特有ノ所見ヲ示スモノデアル。而カモ癌ノ内デモ最モ惡性ナル v. Volkmann ノ所謂癌性乳腺炎 (Mastitis carcinomatosa) ニ最モ近似セルモノデアル。此癌性乳腺炎ト稱スルモノハ其經過非常ニ急激デアツテ數週ノ間ニ、1側又ハ兩側ノ乳房ガ炎症ノ時ノ様ニ發赤腫脹シ數ヶ月デ死亡スルモノデアル。

尙經過ガ速ク且ツ硬度ガ軟デアルコトノ爲メニ一寸肉腫ヲ思ハセルカモ知レナイガ、元來乳腺ノ肉腫ト言フモノハ非常ニ稀ナモノデアル。乳房腫瘍ノ80—85%迄ハ癌腫デアルカラ、35歳以上ノ婦人ノ乳房ニ來タ硬結ハ先ヅ癌ヲ疑ツテヨイ。殊ニ外上四分ノ一ノ部 (oberer äussere Quadrant) ニ來ルコトガ多イカラ尙更疑ヲ深クシテ宜シイノデアル。加之此ノ患者ノ如ク收縮及癒着現象ガアレバ愈ニ確カデアル。又肉腫ノ時ニハ淋巴腺ニ餘リ轉移ヲ造ラヌモノデアル。

療法：乳房切斷 (Amputatio mammae) 及腋窩ノ廓清法 (Ausräumung) ヲ行フノガ最モ良イ。

根治手術ニ就テ注意セネバナラスコトハ、

1) 大胸筋ノ切除ヲ必ズ行フコト。小胸筋モ切斷シテ鎖骨下窩ノ淋巴腺ヲ完全ニ除去スベキデアル。大小胸筋ヲ切除シテモ上肢ノ機能ハ大シテ妨ゲラレナイモノデアル。尙上膊ニ殘ツタ大胸筋ノ斷端ハ之ヲ短クシテ置カヌト後ニ皮膚ト癒着シテ上肢ノ運動ヲ妨ゲルコトガアル。尙術後腋窩ノ皮膚ガ血管及神經ト癒着スルコトヲ妨ゲルタメニハ小胸筋ヲ肋骨附着部カラ切斷シ之デ血管神經ヲ被フテ置ク方が宜シイ。

2) 皮膚ヲ充分ニ切除スルコト。手術後ノ再發ノ充分廓清セラレタ腋窩ニ來ルコトハ少ク、却ツテ縫合セラレタ皮膚ノ瘢痕附近ニ來ルコトガ多ク、其レガ漸次擴ガツテ鎧狀癌腫 (Panzerkrebs) ト云ツタ形ニナルモノデアルカラ、充分思ヒ切ツテ皮膚ヲ切除スルコトガ必要デアル。殊ニ本患者ノ如ク癌性變化ガ廣ク皮膚迄波及シテキル時ニハ充分廣ク切除セネバナラス。其跡ニ生ジタ皮膚缺損ハ直チニ之レヲ有莖皮膚瓣又ハ表皮片移植 (Thierschsche Epitheltransplantation) ニヨツテ被フノデアル。但シ腋窩ニ近イ部分デハ表皮片移植ハ行ヒ難イバカリデナク、後日收縮ノ爲ニ上肢ノ運動ヲ妨ゲル故ニ、Kleinschmidt 氏ニ從ヒ缺損部ノ外縁ニ沿ヒ上腹部迄達スル大キナ切開ヲ加ヘ、腋窩部ニ柄ヲ有スル大キナ有莖皮膚瓣ヲ造リ、其尖端ヲ前上方ヘ曲ゲテ縫合スル。此ノ瓣ハ血管ノ走行方向ト一致シテキル故ニ生存能力ガ確カデアル。

最後ニ手術不能ノ場合ヲ舉ゲテ見ルト、

1) 轉移ガ遠隔臟器ニ出來テキル時。

乳癌カラ肝臟肺臟又ハ骨等ニ轉移ヲ起シ、大腿骨デ特發骨折ヲ起シタリ、又脊椎骨ニ轉移ヲ造リ烈シイ疼痛ヲ起シ間モナク下肢ニ麻痺ヲ來スコトナドガアル。

2) 鎧狀癌腫 (Cancer en cuirasse, Panzerkrebs)

皮膚ニ於ケル轉移ガ主デアツテ乳房ノ周圍カラ胸部皮膚ヘ表在性ニ擴リ終ニ多數島嶼狀ノ皮膚轉移ガ互ニ相癒合シテ全胸廓ヲ圍繞スルーツノ硬板ニ變ジ、所謂 Panzerkrebs トナリ、呼吸運動ヲ妨ゲ終ニ窒息死ヲ來スモノデアル。

3) 腋窩淋巴腺ヘノ轉移ガ血管及ビ神經ト固ク癒着セル場合。此ノ際ニハ血管ヲ壓迫シテ上肢ニ鬱血、浮腫ヲ起シ、神經ヲ壓迫シテ烈シイ疼痛ヲ起スニ至ルモノデアル。

4) 乳癌ガ胸壁ト癒着セル場合、及ビ

5) 鎖骨上窩ノ淋巴腺轉移アルトキーハ手術ハ可能デアルモ、再發ヲ來スコトガ多い。

尙胸壁ノ淋巴管ヲ通り癌ガ胸腔内ヘ進ミ所謂癌性肋膜炎 (Pleuritis carcinomatosa) ヲ起シ死ヲ來サシメルコトガアル。平均スレバ乳癌ハ發病後2年乃至2年半デ死ノ轉歸ヲトルモノデアル。之カラ此ノ患者ノ手術ヲ御目ニカケル。